

大洲ロータリークラブ杯青少年なわとび選手権大会競技規定

☆ 参加規定

- 1 申し込みは、締切日までに、大会事務局に申し込む。締切日以降や当日の申し込み、ならびに出場する種目の変更は、一切認めない。
- 2 出場種目は、個人1人2種目（※親子とびを除く）とする。
- 3 団体種目「ダブルダッチ1分みんなでチャレンジ」は、違うカテゴリーの選手がチームに含まれていても構わない。その場合は、最も上のカテゴリーに属している選手の部門で出場することとする。
(例) 小学生低学年と小学生中学年が合同で出場する場合は、中学年の部に出場することになる。
- 4 健康状態については、保護者・チーム責任者が責任をもつこと。傷害保険料を超える範囲の事故については、協会は責任を負わない。
- 5 棄権する場合は、大会前日までに大会事務局にメールで届け出る。やむを得ない場合は当日も可。
※contact@ehime-nawatobi.com
- 6 規定にない事態が発生したときは、競技部（会長・審判長・事務局等）で協議し決定する。
- 7 参加者は愛媛県内在住者のみとする。

☆ カテゴリー

- 個人種目：未就学児、小学生1年、2年、3年、4年、5年、6年、中高生部門
※中高生部門のカテゴリーは男女別とする。
- 団体種目：未就学児（ひとりでチャレンジのみ）、
小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中高生部門

☆ 競技種目

【個人種目】※1人2種目まで（親子とびを除く）

- 未就学児：前とび、あやとび、二重とび、親子とび
小学生：あやとび、交差とび、二重とび、あや二重とび、親子とび
中高生：二重とび、三重とび

【団体種目】

- 未就学児：ダブルダッチ1分「ひとりでチャレンジ」
小学生：ダブルダッチ1分「ひとりでチャレンジ」、「みんなでチャレンジ」
中高生：ダブルダッチ1分「みんなでチャレンジ」

※小学生が「ひとりでチャレンジ」「みんなでチャレンジ」に重複して出場することは不可

☆ 表彰規定

【個人種目】

- ・ 参加者全員に記録証を当日授与する。
- ・ 各カテゴリー各種目上位3位までには、賞状とメダルを授与する。

【団体種目】

(ダブルダッチ1分ひとりでチャレンジ)

- ・ 各カテゴリー上位3位までには、賞状とメダルを授与する。

(ダブルダッチ1分みんなでチャレンジ)

- ・ 参加者チームに記録証を当日授与する。
- ・ 各カテゴリー上位3チームには、選手数分の賞状とメダルを授与する。

☆ 競技規定

※ 競技中にロープが切れたり破損したりした場合、出場順を改めて一度だけやり直すことができる。

【個人種目】

計測種目（前とび・かけ足とび・親子とび）

（前とび）

- 1 30秒間で前とび（両足）を何回跳べるかを競う。記録は30秒間に跳んだ合計跳躍回数（着地した回数）で表す。ただし、1回旋2跳躍も1回として計測する。
- 2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。
- 3 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。

（かけ足とび）

- 1 30秒間でかけ足とびを何回跳べるかを競う。記録は30秒間に右足が地面についた合計跳躍回数で表す。
- 2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。
- 3 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。

- 4 前回しでも後回しでも、どちらでもよい。

（親子とび）

- 1 30秒間で親子とびを何回跳べるかを競う。記録は30秒間に跳んだ合計跳躍回数（着地した回数）で表す。ただし、1回旋2跳躍も1回として計測する。
- 2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。
- 3 保護者が短縄を回し、2人同時に跳ぶ。
- 4 親子とびに出場する子どもが複数の場合は、一緒に跳ぶ保護者は同じでもよい。
- 5 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。
- 6 前回しでも後回しでも、どちらでもよい。

持久種目（あやとび・交差とび・二重とび・あや二重とび・三重とび）

- 1 記録は跳んだ回数（着地した回数）で表す。ただし、1回旋2跳躍も1回として計測し、あやとび・あや二重とびについては手がクロスした回数を数える。
- 2 「はじめ」の合図があり、一回旋技・二回旋技・三回旋技を跳びはじめ、ロープが足に引っかかった時や、跳ぶのをやめたとき、また三回旋技は二回旋技や一回旋技、二回旋技は一回旋技になってしまったときが終了となる。
- 3 記録は、やめたときに両足ともロープを越えていれば、その跳躍は記録に入れるが、そうでない場合は、最後の跳躍は記録に入らない。
- 4 試技は1回とし、10回以上跳べた場合は、それを記録とする。記録が10回に満たない場合は、直後にもう一度試技できる。ただし、それでも10回に満たないときは、よい方が記録となる。
- 5 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。
- 6 前回しでも後回しでも、どちらでもよい。

【団体種目】

ダブルダッチ1分（ひとりでチャレンジ）

- 1 1分間でダブルダッチ両足とびを何回跳べるかを競う。記録は1分間に跳んだ合計跳躍回数で表す。
- 2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。
- 3 ターナーは大会主催者側が行う。
- 4 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。

ダブルダッチ1分（みんなでチャレンジ）

- 1 1分間でダブルダッチかけ足とびを何回跳べるかを競う。記録は1分間に右足が地面についた合計跳躍回数で表す。
- 2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。
- 3 選手はターナー2人、ジャンパー1人とする。小学生部門のロープの回し手（ターナー）は、小学生が1人以上でなければならない。
- 4 ロープの長さは、自由とする。
- 5 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。